

令和5年度第3回加茂市環境審議会 議事要旨

1. 日時：令和6年1月23日（火）14時00分から16時00分まで

2. 場所：加茂市役所5階 全員協議会室

3. 出席者

（環境審議会委員）

五十嵐委員 藤堂委員 小林委員 藤島委員 名古屋委員 近藤委員 増井委員 米田委員
曾根委員 番場委員 皆川委員 上村委員 大沢委員

（事務局）

市川 CSO

石附環境課長

板谷環境政策専門員

環境課：坪谷 齋藤

イー・コンサル：小川 渡邊

4. 審議会要旨

事務局：【開会】

五十嵐会長：元日に地震があり、自宅でも強い揺れを感じた。学校でも関係者の安否確認を行った。先日、新潟大学を訪れたところ、地震の影響が大きいことを目の当たりにした。計画の中で防災の観点も重要と感じる。

事務局：出欠確認（14名中13名出席、藤堂委員は遅れて参加）、資料確認

事務局：以降の議事については会長に進行をお願いします。

【議事】

五十嵐会長：議題(1)加茂市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）素案について、事務局から説明をお願いします。

事務局：（資料2「加茂市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）素案」について説明）（小川）

近藤委員：太陽光発電について、七谷地域などで遊休農地を活用した事業開発が進められようとしていると聞く。そうした開発について、例えば30年間は収入が保障されるようだが、撤退した際にどうになってしまうかなど懸念がある。あまりに大規模な事業開発は心配だ。

五十嵐会長：太陽光発電事業については他県で乱開発に繋がったケースもある。

事務局：本編の p.36 に方針を記載しているが、加茂市としては大規模開発を積極的に
(小川) 推奨はしない。景観に配慮したものでみなさんに迷惑をかけないものを
推進していく方向性としている。

五十嵐会長：建物への設置が中心と理解してよいか。

事務局：建物の屋根置きだけで達成しうる目標を設定している。

(小川)

名古屋委員：加茂市内で太陽光発電事業を目的とした伐採を森林組合として実施したことは
ない。近隣では農地だった場所に太陽光発電設備が設置されているケース
はある。ただ、加茂市内で急激に大規模な事業が開発されることは想定しづ
らい。

近藤委員：七谷の水田地域で進める準備ができているところがあるように聞いている。
後継者がいないところだと太陽光発電事業への活用が魅力的に映ってしまうこ
とは考えられる。

増井委員：何を進めるにもマイナス面がある。太陽光発電設備設置などの環境問題はマ
イナス面もしっかり検討すべきではないか。

事務局：事業開発への対応について、環境課としては自然環境保全条例に基づいた対
(石附課長) 応をこれまで実施してきている。その中で 1000m²を超える開発行為は市に
届け出が必要になるため、大規模な開発行為については情報を把握できるも
のと考えている。もう少し詳しく記載したい。

小林委員：10 数年前に国を挙げて太陽光発電を推進したが、ここに来て処分など様々な
問題が生じている。また、今あるものを大切に使うことも大事ではないか。
その点についても盛り込むべきと考える。

五十嵐会長：CO₂排出の大部分はエネルギー利用によるものと思われるが、リデュースの
観点も重要と考えられる。

事務局：太陽光発電設備の廃棄については確かに課題がある。10 年前の設備について
(小川) は制度面で廃棄が考慮されておらず、問題視されている。現在は事業期間中
に廃棄費用の積立が義務付けられており、国内での再利用の事業化も進展し
つつあり、課題は解消する方向に進んでいる。

一方で、何もせず現在のエネルギー需給構造を維持することには、気候変動
リスクをさらに高めるといふ大きなマイナスがある。これを是正するため、
加茂市でもゼロカーボン宣言を行っており、これらのバランスをとってい
く必要がある。

今あるものを大切にすることは重要な視点と考える。ただしエネルギーを使
うものについては使い続けるだけエネルギーを消費してしまうため、古いも
の場合エネルギー消費量が多く、作る段階での排出を考えても更新によっ
て排出量を下げられることもある。洋服などは使用時にエネルギーを使用し
ないが、機器については使う際のエネルギー消費を考える必要もある。

- 小林委員：新しいものの方がエネルギー効率がよいことは分かる。ただ、効率だけで切り替えるということには違和感がある。
- 五十嵐会長：バランスを見て採用していくのがよいと考える。
- 藤堂委員：太陽光発電事業について将来的な採算を事業者が保障することが可能か、という懸念は確かにある。事業者は採算がとれなければ倒産するという選択肢がある。将来的に出力抑制が拡大し、収入が減少する可能性もある。新潟県や新潟市の環境影響評価要件では30ha以上の太陽光発電が対象となっているが、30haでは市民感覚でいうと相当大きなものしか対象にならない。もしそうした要件をもって制御するのであれば規模についてはもっと小さく設定した方がよいだろう。
- 米田委員：まず計画全般については、現状から課題を踏まえて取組を記載しておりよくできていると思う。その上で、各主体に期待する取組をサポートするために市が何をするかについてもっと具体化してもらえるとよいと思う。難しければ、今後の進行管理において市の取組を明確にしてもらいたい。例えば、事業者と共同して勉強会などがありうるのではないか。
- 五十嵐会長：市民や事業者に対するサポートという意図と理解した。
- 事務局：p.33に記載しているように、特に最初の3年間については「知る」ということに注力する、情報発信に取り組んでいきたいと考えている。ただ、具体的な書き込みが不足していることは認識しており、今後引き続き検討していきたい。
- 五十嵐会長：場作りは重要だと考える。商工会や町内会など、具体的な対象を定めながら情報提供していくとよいのではないか。
- 曾根委員：当社では一昨年新社屋を整備したが、その際は材料費が高騰していたせいで太陽光発電設備を当初の計画通りの規模で設置できなかった。その際は企業間でそうした情報共有するような機会がないために、県などの補助事業を自ら調べて実施した。太陽光発電設備を導入したことで電気代の削減に繋がっており、本来であれば当初の計画通り全ての建物に導入したかった。中小企業として経営が苦しい中で、更にエネルギーコストを削減していきたいという思いがある。
- 増井委員：p.27、加茂山や加茂川だけでなく粟ヶ岳・信濃川も書くべきでは。p.29、注釈がついているが説明がない。
- 事務局：用語についてはご指摘の点も含めて、説明の補足を行いたい。表記上問題がある点についても見直したい。
- 皆川委員：脱炭素化や気候変動だけでは面白くなさそうと感ずるので、他部署と連携して魅力的な場作りを進めて欲しい。

事務局： かもフリマなどは人が集まるイベントになってきている。環境課としては公共（石附課長）交通やごみも所管しているので、そうしたのもうまく組み合わせながら検討したい。

藤島委員： 七谷中学校で教鞭をとっているが、学生が周辺の自然環境を魅力的に捉えていると感じている。日照条件はそれほどよくないと思われるが、自然豊かな地域であり、太陽光発電事業にふさわしいようには思えない。

五十嵐会長： 図表 2.5 に関連して、について加茂市は森林面積が多いため、森林整備を行うことによって、吸収がどの程度増えるものなのかについて記載ができれば良い。バイオマスの活用の可能性があるのではあれば薪ストーブの導入があると加茂市らしい取り組みになるのではないか。

事務局： 森林組合へ間伐の実績の照会も行なっている。バイオマスのエネルギー利用（小川）について可能性は認識しているが、材の供給体制やコストの面で課題もあり、慎重な書きぶりに留めている。

五十嵐会長： 新潟市にイーレックスがバイオマス発電所を計画しているが、輸入バイオマスが中心となっており問題がある。地域にあるものを活用する視点が必要。

事務局： 太陽光発電については野立ての発電事業をイメージした議論が中心だったが、本計画では住宅や事業所での自家消費型の設備を想定している。（市川 CSO）

五十嵐会長： ネイチャーベースドソリューションの観点も踏まえて検討してほしい。

五十嵐会長： 続いて、議題(2)加茂市環境基本計画素案について、事務局から説明をお願いします。

事務局： （資料 3「加茂市環境基本計画素案」について説明）
（小川）

五十嵐会長： 満足度がしっくりこない。関心度の方がよいのではないか。

事務局： 捉え方によって回答が変わってくる可能性はある。今回は総合計画でのアンケートとフォーマットを合わせるために満足度として調査した。（渡邊）

五十嵐会長： 空き家バンクの成約数が 1 件から 5 件というのはそれでよいのか。

事務局： 総合計画による目標値を記載している。

（小川）

事務局： 総合計画も前期 5 年間で過ぎようとしているところで、目標を前倒しで達成したものや実態と目標が乖離しつつあるものもあり、所管課にも確認して更新したい。（市川 CSO）

五十嵐会長： 指標について「花がいっぱい」で生物多様性が確保できるものでもない。環境保全型農業の面積なども目標として入れてはどうか。間伐後の再造林や指標について「花がいっぱい」で生物多様性が確保できるものではない。環境保全型農業の面積なども目標として入れてはどうか。間伐後の再造林や広葉樹を増やす取組も重要だと思う。

グリーンツーリズムだけでなく、エコツーリズムや生物調査などもできるとよいのではないか。また、環境教育については子どもたちだけでなく、大人を対象としたものも必要だと考える。

事務局：実態に即した内容で検討したい。他の計画の改定のタイミングなども考慮しつつ調整する。
(市川 CSO)

増井委員：総合計画では SDGs の項目が 4 つ抜けているがこちらには全て入っている。それとの関連はどうなっているか。以前、総合計画を策定する際の説明では目標は 1 つでもよいといていた、ダブルスタンダードでは。

事務局：総合計画で述べられていないものを補足する役割もある。総合計画を策定する際は例えば「エネルギーをみんなに そしてクリーンに」というゴールを議論できる段階でなかったと理解している。また総合計画と個別計画の関連について、基本契約と個別契約の捉え方のように、詳細は個別計画でカバーすると考えている。
(市川 CSO)

増井委員：総合計画策定当時の議論で SDGs のゴールについては 1 項目でも入れればという方針だったことと矛盾するように感じている。

事務局：総合計画策定当時は環境分野の議論ができる状態ではなかったと推察している。
(市川 CSO) 時代の流れのなかで対応し、総合計画も改定の必要がある。総合計画で述べられていないということで、こちらで述べてはいけないということではないと考える。

増井委員：総合計画策定当時の考え方について納得いかない部分があった。

事務局：総合計画にも反映していきたい。今は 1 (貧困)、7 (エネルギー)、9 (産業)、17 (パートナーシップ) が抜けている。活動も進めている分野もある。
(市川 CSO)

五十嵐会長：総合計画との整合性も重要だが、計画策定のタイミングなどの関連もある。

小林委員：p.19 で目標数値を記載しているが、そのために市民や事業者が何をすべきかがわからない。

事務局：区域施策編でも同様の観点でご指摘いただいております、取組内容をさらに具体化したい。今回は基本計画であり、行政としてどのような方向性で進めていくかを示していると理解してもらえればありがたい。
(石附課長)

五十嵐会長：その点については今後の課題だと思っている。PDCA の Do と Check についての達成度合いの進捗管理は行うのか。

事務局：毎年か、隔年かは検討中だが進捗管理は実施する。毎年変わるものであると望ましいが、進むものとそうでないものがあるため精査していきたい。
(石附課長)

五十嵐会長：PDCA サイクルをどのように回していくか、それが市民から見えるかという点が重要だと考える。

事務局：進捗度合いについては短期間で確認してもらえるような体制としたい。
(石附課長)

名古屋委員： p.1で「加茂川や加茂山」だけでなく粟ヶ岳なども含めた記載とすべきではないか。

区域施策編の方で p.17 の農林業従事者データについて、農林業センサスのデータを参照してはどうか。特に農業の就業者数について実態と乖離しているように感じる。

事務局： 表記、データについて改めて検討する。

(石附課長)

増井委員： 指標として、何を見れば環境保護が進んだと見てよいか。市民にもわかりやすい指標があるべきではないか。

事務局： 自分としても策定しながら難しさを感じているところ。引き続き検討したい。

(石附課長)

五十嵐会長： 環境問題は複雑で分かりやすく示すのが難しいと感じる。環境政策をまとめて掲載するようなページがあるとよいのではないか。

米田委員： 当初計画ではパブリックコメントもされるとのことだった、そのあたりはどうなっているのか。

事務局： 可能であれば今年度中に策定したいと考えているが、期日にこだわって内容が伴わなくては意味がないので、必要な部分については時間をかけて精査したい。

(石附課長)

小林委員： 商工会議所によるエコ検定などもかつてはあったが、最近は見かけない。そうしたものがあれば啓発に有効ではないか。

事務局： エコ検定については承知していないが、確認してみたい。

(石附課長)

五十嵐会長： 他に意見がないようなので、以上をもって第3回加茂市環境審議会を閉会する。

以上